

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 4 月 1 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671400236
法人名	有限会社 おりの
事業所名	グループホームぽかぽか
所在地	徳島県海部郡海陽町久保字板取12-1 (電話) 0884-74-6201

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 3 月 19 日

【情報提供票より】(平成 20 年 12 月 28 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤:10人、非常勤:8人、常勤換算:Aユニット 7.1人、Bユニット 7.1人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~40,000 円	その他の経費(月額)	管理費:10,000円、その他:実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	350 円	昼食 400 円
	夕食	550 円	おやつ - 円
	または1日当たり		1,300 円

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 12 月 28 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	2 名	要介護2	5 名			
要介護3	6 名	要介護4	5 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	90 歳	最低	82 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	折野胃腸科内科
---------	---------

徳島県 グループホームぽかぽか

1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は医療連携体制の整備、指定認知症対応型通所介護や短期利用型共同生活介護の指定を受けるなど、利用者や家族の要望に応じた柔軟な支援を行う体制を整えている。「温もりとやすらぎのあるアットホームな生活を支援します。」という理念のもと、利用者が地域住民の一員として過ごすことができるよう地域行事への参加や外出支援を積極的に行っている。近隣の方たちとのコミュニケーションも密に図られ、事業所の存在は地域に認識されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な課題である「重度化や終末期に向けた方針の共有」、「災害対策」の項目については改善されている。「運営推進会議を活かした取り組み」の項目については改善されていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や職員は評価のねらいについて理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。また外部評価結果については運営推進会議で報告し、改善に向けた話し合いを行うなど具体的なサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地域住民、地域包括支援センター職員、町担当職員、地域密着型サービスの知見者、協力医などが参加している。会議では事業所の取り組みや外部評価結果を報告したり、サービスの質の向上に向けた話し合いなどが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見は、意見箱の設置や来訪時の積極的な問いかけによって把握している。出された要望等については職員間で検討して対応し、サービスの質の向上に繋げている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員は利用者が「地域の一員」として過ごすことができるよう、地域行事への参加や外出等を積極的に支援し、近隣の方たちとの付き合いが日常的に行われている。また事業所の行事に地域住民の協力を得ることができるなど、双方向的な交流が図られている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で協議し、地域密着型サービスとしての具体的な内容を含んだ事業所独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に理念を唱和して意義を確認し、日々の実践に取り組んでいる。また理念を職員が確認しやすい場所に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は利用者が「地域の一員」として過ごすことができるよう、地域行事への参加や外出等を積極的に支援し、近隣の方たちとの付き合いが日常的に行われている。また事業所の行事に地域住民の協力を得ることができるなど、双方向的な交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価のねらいについて理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。また外部評価結果については運営推進会議で報告し、改善に向けた話し合いを行うなど具体的なサービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地域住民、地域包括支援センター職員、町担当職員、地域密着型サービスの知見者、協力医などが参加している。会議では事業所の取り組みや外部評価結果を報告したり、サービスの質の向上に向けた話し合いなどが行われている。内容は全職員に報告して会議録を作成しているが、確認印・サインがない。	○	会議内容が全職員に周知されたことがわかるよう、会議録を回覧し確認印・サインすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は月に2～4回窓口を訪問し、広報誌を渡したり事業所の活動状況報告や意見交換を行うなど日頃から協力関係を築いている。また事業所の行事の際には町の担当者の応援が得られるなど連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりは「ぼかぼかアルバム」や毎月発行する「グループホームぼかぼか」を郵送し、報告している。また家族の来訪時にもそのつど報告している。金銭管理の記録に家族の確認印・サインがない。	○	金銭管理の記録は、家族からの確認印・サインをもらうことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は、意見箱の設置や来訪時の積極的な問いかけによって把握している。出された要望等については職員間で検討して対応し、サービスの質の向上に繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	地元出身者を職員として採用し、馴染みの関係による支援を大切にしている。また職員の離職を最小限に抑えたり異動の際には引き継ぎ期間を十分にとるなど、利用者の混乱を防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を全職員に回覧し、希望者が受講できるように配慮されている。また外部業者と契約して内部研修を実施し、全職員が受講できるように同じ内容で2～3回行うなどしている。研修の記録は作成されているが、職員の確認印・サインがない。	○	研修記録は全職員に回覧し、確認印・サインすることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は近隣の同業者と相互訪問して意見交換を行ったり、ソフトボール大会を開催して交流を深めるなどしている。また県内外の同業者とも交流を行い、ネットワークを構築してともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学してもらったり、指定認知症対応型通所介護や短期利用型共同生活介護を利用してもらうなどして徐々に場の雰囲気に馴染み、安心して入居できるよう柔軟に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は年長者である利用者を人生の先輩として尊敬している。また昔ながらの生活の知恵を教えてもらうなど、共に暮らし支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	地域の詩吟大会への出場を生きがいとしている方には、当日に向けた練習を応援するなど、利用者一人ひとりの思いや希望にそった支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者の思いや家族の意見・希望等を組み込み、独自のアセスメントを行って協力医等と話し合いながら作成している。計画書には利用者・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月1回、定期的に見直している。また利用者の心身に変化が生じた際には利用者や家族、かかりつけ医、職員が十分話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整備し、また指定認知症対応型通所介護や短期利用型共同生活介護の指定を受けるなど、利用者や家族の要望に応じた柔軟な支援を行う体制を整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週2回の訪問診療と必要に応じたかかりつけ医の受診を支援し、適切な医療が受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、入居の際に利用者や家族と具体的に話し合い、方針を共有している。利用者の状態に変化が生じた際には、そのつど家族と相談している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規程や利用契約書、重要事項説明書にプライバシー保護について明文化している。個人の記録は適切に保管されている。職員の言葉かけは、利用者一人ひとりの誇りに配慮して行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのライフスタイルを大切に、その日・そのときのペースにそった暮らし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳、後片づけなど、利用者一人ひとりの力量に応じた役割を手伝ってもらっている。食事は職員も同じ品を食べ、和気藹々とした雰囲気の中で楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望に応じていつでも入れるよう支援している。車いすを利用している方は併設事業所の機械浴を利用するなど、一人ひとりの状態に応じた配慮も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者や家族から生活歴や趣味、楽しみごとを聞き、職員と一緒におやつ作りを行うなど張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所前の水際公園を散歩したり、地域の行事や運動会、買い物に出かけるなど日常的な外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者の行動から外出しそうな気配を察知し、さりげなく言葉かけを行ったり、一緒に出かけるなど、日中、鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、火災・避難訓練を実施している。地震や津波等の防災計画を整備し、地域住民とともに運営推進会議でも検討している。併設事業所の2階と屋上に避難場所を設置している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日来訪する協力医から食事メニューと栄養バランスの指導を受けている。栄養・水分摂取量のチェックも毎食後行い、記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は木の温もりが感じられ、天井が高く、日当たりも良い。また畳の間も設けるなど、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋室と和室があり、利用者の希望にそって選択できるようになっている。また居室にはダンスや写真など利用者が使い慣れた家具や思い出の品を持ち込み、その人らしい生活が送れるよう工夫している。		